

企業の明日を決するもの

What Determine the Future of Enterprises

横 地 誉 富

1. 私は去年の夏来日した米国のドラッカー教授のセミナーに参加したが、この時博士からおしえられた感銘深い言葉を今もなお忘れることができない。

「知識と技術こそ今後の産業社会を支配するものである」

2. いま東洋曹達という会社の将来を考える場合に一番力を入れなければならないところは人材の育成と研究部門の強化にあると私は考える。

「研究に力を入れる」このことは従来からも一般的に、しかも抽象的に言われてきたことである。しかしいま私がここで言いたいことは、戦後における知識、技術の驚異的な進歩発展である。産業社会における急速な新陳代謝の進行である。

昨日は王座の地位を誇ったものも、今日は衰退斜陽の座に落ち、技術の革新を成しとげたものはますます成長繁栄の道を進む。

業界における生存競争はまさにし烈であるといわなければならない。脱落か繁栄か、このキポイントを握るものこそ研究の成果にあるのではなからうか。

3. 当社はここに創立25周年を迎え、いまや第二の発展段階に入ろうとするときである。

売上高はようやく年間100億円に近いものとなってきたが、その内容はソーダ灰、カセイソーダ、セメント、塩安、塩化物である。ソーダ、セメント、塩安等は漸次増大して行くであろうけれども、ここには飛躍的革新というようなものは見出しがたい。

そうとすれば塩化物の売上および塩素の自家消費を拡大しく行くことこそ当社の将来の飛躍的発展の方向であろう。そのためには、当社の体質に適應した、独自の塩化物部門の研究は、今後ますます重要なウエイトをもつものであると私は確信する。

むずかしい問題ではあろうけれども、せつに研究部各位の情熱と精進を願って明日の希望をこれに託するものである。

(取締役・社長室総務)